

亀田
りょうすけの
あゆみ

苦勞をしょってでも 人様のお役に立つようにと言われ育ちました

苦難解決は、共産党と私の原点



兄弟で鯉ノポリづくり

1948年、新聞記者の父と農業をする母の長男として生まれました。「苦勞をしょってでも人様のお役に立つように」と子どもの頃から両親に言われ育ちました。



サークルで、歌唱指導

1968年、金沢大学法文学部に入学。子どもたちに夢を語れる教師にと、サークルで学びました。歌声が好きなのは、この頃から。学生時代の交遊は、今も大きな宝です。



イルターツク州商工会幹部と

畑違いの貿易関係に就職。石川県とロシアの友好と経済交流をと、150回以上も訪問しました。



子どもの医療費無料化を求めて、県と交渉

県健康友の会連絡会事務局長として、安心して住み続けられる街づくりめざし奮闘しました。



仮設住宅で青空市

2011年の夏、釜石に3週間支援に行き、被災者の声を直接聞いてきました。一刻も早い生活と生業の再建は、政治の責任と痛感しました。

「夫を奪った海が憎い」の叫び、
今もわすれることは
できません。



新石川
2013年4・5月号外
発行 新石川社（昭和48年7月8日第3種郵便物認可）
金沢市保良町3丁目169 TEL: 076-249-5528
日本共産党石川県委員会 金沢市中村町9-10 連絡先
TEL: 076-243-2877 FAX: 076-247-1080

日本共産党石川県委員会
の見解を紹介します

田 亀

障害の大患。健康・福祉を「守り、平和を守り、憲法が輝く日本」をめざして活動。母の思い、政治の責任が希望の持主をつくる社会を。選挙運動を通じて学んだのは、自分の責任。東北被災地の支援活動に参加し、復興の希望を届ける。選挙運動を通じて学んだのは、自分の責任。東北被災地の支援活動に参加し、復興の希望を届ける。

1948年珠洲市生まれ、64歳、金沢大学法文学部卒、石川県貿易協同組合専務理事、県健康友の会事務局長、尾西洋子・佐藤正幸泉議秘書、
現在党県委員、県ロシア協会副理事長